



平成30年7月6日

認められる喜び

教室には、ペットボトルキャップをじっと見つめる眼差し。体育館には、ねらいすました手からゴールめがけて飛んでいくボール。廊下では、ものすごいスピードのぞうきがけ。今日（3日）は、チャレンジランキング大会が行われており、真剣に競技に取り組む姿があちらこちらに見られます。校内に全部で9種目の会場があります。次の競技会場に向かう顔には、意気込みや満足感が見られます。どの顔も一様に笑顔です。



〈ものすごいスピード〉

そんな中、話しかけてくる3年生の男の子がいます。「校長先生。すごいよ」自分の記録の報告かと思えば、そうではありません。「〇〇くんの記録。〇〇秒。すごいやろ」友達の記録のすばらしさを私に伝えてくれているのでした。すごい記録の〇〇くんも、そうそう見ることができない誇らしげな笑顔で側にいます。友達と楽しく活動できるようにと企画した取り組みですが、友達に認めてもらえることが喜びになるという視点も大切だと教えられました。



〈記録は…〉

楽しい時間も終わり、体育館に全校児童が集合して閉会式です。まず、記録がすばらしかった子供たちを認めました。続いて、友達を応援していた子供たちをほめました。最後に、この大会の準備・運営・片付けに関わってくれた子供たちの労をねぎらい、感謝しました。記録を出したこと、それを称えること、そして、これらを支えること、どれも欠けても今日の姿にはつながりません。全ての子供たちが協力的で認め合うことができるすばら

しさを感じます。

「すごいね」「えらいね」そして、「がんばってね」のあふれる学校を目指して、子供たちは日々活躍しています。教職員も工夫し、支援していきたいと思います。